

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500064		
法人名	株式会社 インテント		
事業所名	グループホーム いろは		
所在地	宮崎県小林市2283-3		
自己評価作成日	令和4年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和4年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念をもとに、入居者様の尊厳や個性を大切に、入居者様一人ひとりが自分らしく安心して穏やかな生活ができるようコミュニケーションを大切にしている。取り組みとして、毎日の記録に会話内容や気分の変化を記入することでご本人が求めているものを知り、ケアプランに反映させられるよう努めている。また、日々の生活の中で入居者様のできることや得意なことを引き出し、張りのある生活ができるようなケアを心掛けている。  
 認知症ケアについては、認知症についてより理解を深めるため、勉強会や認知症についての文書等に学び、認知症状が進行しないよう対応している。  
 また、職員育成の一環として毎日の清掃の徹底、職員間がより良い関係を築けるよう、感謝の気持ちを伝えるためにサンクスカードを活用するなど職場環境の改善にも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

排泄の自立支援や看取りケアへ向けた取り組みなど、職員間で繰り返し勉強会や話し合いを行い、個別支援に向けた取り組みに努めている。入浴準備や衣類選びなど細かい動作であっても、職員が付き添いながら入居者本人にやらせてもらうといった、できることを見守り、続けられるような支援を行っている。在宅での暮らしで馴染んできた嗜好品についても、制限をせずに継続して楽しんでいただけるよう工夫している。ホームの理念が職員一人ひとりの行動目標につながり、入居者の日常生活支援に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『入居医者様が自分のペースで自分らしく生活できるよう、その方の尊厳を守り安心して穏やかな毎日を送って頂く』ことを理念とし、毎日朝礼で理念唱和し、職員全員で理念の共有をしている。	理念は見やすい位置に掲示し、毎朝朝礼で唱和している。理念を基に毎月の目標を定め、職員間で入居者対応に関する振り返りを行っている。理念は定期的に見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際は、地域の方々に積極的に挨拶している。地域との付き合いについては、コロナ感染予防のため行えていない。	自治会に加入し、ホームの行事には地域住民の参加を呼び掛けている。ホームで管理している畑の野菜作りについて近隣住民からのアドバイスがあるなど関係性が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍であるため行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在コロナ禍であるため、市に相談し今年度は行わないこととなっているため、資料にて状況報告のみ行っている。	入居者に関することや活動の内容などについて資料を作成し、報告している。各委員から積極的な意見を収集できるための工夫に努めているが、状況報告が主である。	職員間の研修報告など、取り組みに関する内容を資料に含めることで、ホームの運営についてより深く理解してもらい、多くの意見を収集できるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は現在コロナ禍であるため、市に相談し今年度は行わないこととなっているため、資料にて状況報告のみ行っている。	市とは運営に関する質問などをしやすい関係を築けている。地域包括支援センターの声掛けで他の施設管理者と意見交換できる場が設置されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束について勉強会の実施と、職員会議にて3ヶ月毎に討議を行い、全職員で知識を共有している。玄関の施錠は夜間以外はしておらず、センサーを玄関に置いているが、決して行動の抑制はせず見守りや声掛けにて対応している。	職員勉強会の年間計画を立て、また毎月の職員会議も利用しながら定期的に研修に取り組んでいる。特にスピーチロックに関して学びの機会を多く設けている。職員は日々の入居者への言葉かけに注意を払うことができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年の勉強会で知識を共有している。職員に対しても希望休をとりやすい体制を作り、仕事上の悩み等があれば、その都度話を聞くようにし、精神的なストレスから虐待が起こることのないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の方が成年後見人制度を利用しており、毎月の面会にてご本人と話をされたり、職員より生活状況の報告をするなど成年後見センターと連携を図っており、全職員が理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすいよう説明している。説明後は、不安事や疑問点がないかこちらから確認し、納得して頂けるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に機会を設けてはいないが、面会時等に意見や要望が上がった時には検討している。	コロナ禍により規制が敷かれた状況下であっても、家族からの希望があれば窓越しでの面会や、直接居室に入ってもらおうなどの工夫をしながら極力実施できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務上での問題点や改善案などについては、専門職やリーダーと検討したり、職員会議にて全員で検討するなどし、その都度改善している。	少人数ということもあり、職員間には意見を言いやすい雰囲気がある。管理者は業務シフトを利用しながら、個別での相談も受けられるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与・昇給・処遇改善加算等についての勉強会を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得のための休暇の確保や勤務調整をするなど、参加しやすい環境を整えている。また、毎月1回職員の担当制で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おたまじゃくし会(包括主催)で意見交換会ができていたが、今年度より廃止となりできなくなってしまった。包括主催ではなくなったが、自分達でできないか模索中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に担当ケアマネと連携を取り、ご本人、またはご家族の方に施設見学をして頂き、入居者様・職員・施設の雰囲気を確認して頂いている。また、不安や要望等を十分聴き、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や悩み、困っていること、要望等を傾聴し、安心して頂き良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聴き、今、何がその方にとって必要なサービスなのかを見極め、安心して生活して頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『ご自分でできることはして頂く』ことを基本とし、個々の能力に応じたお手伝いなどをして頂いている。また、感謝の気持ちや労いの言葉を伝える(敬老会では感謝状を贈る)ことで、良好な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を第一に考え、受診の付き添い等協力を頂きながら、ご家族と共にご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍であるため自粛している。	現在はコロナ禍により制限されているが、行きつけの美容室やレストランへ職員が付き添って外出し、入居者の希望を取り入れながら関係継続へ向けた支援を行っている。遠方の家族に対しては、入居者の状況について手紙を付けて報告している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係を常に把握し、入居者同士が関わりやすいような環境の提供や、職員が間に入りながら入居者様同士が良好な関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先への細かい情報提供を行っている。また、ご家族へも必要時にいつでも相談して頂くよう声掛けしている。また、相談しやすいような雰囲気作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望を大切に、日々の会話の中で把握したことを記録に残し、本人本位のサービスの提供に努めている。	「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を利用して、入居者本人の言葉や表情、気分、職員の対応などを記録し、介護計画に活かされるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限りご本人やご家族から聞き取りを行い、また、必要に応じて以前のケアマネや、行政に情報提供の協力を頂きながら情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションからその方の心身状況や能力の把握に努め、1日の流れや気分の変化等を記録に詳しく残し、支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングをもとに、できる限りご本人やご家族の意見も聞き、全職員で検討しながら介護計画の作成をしている。	担当職員と計画作成担当者が中心となって介護計画を立てているが、モニタリングは職員間で意見を出し合っている。コロナ禍もあり、家族等への説明の機会が乏しく書類のやり取りだけになっている。	コロナ禍により介護計画の内容説明がしにくい状況であるため、時には電話などを利用し、家族・関係機関との相互のやり取りが行えるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の行動や言葉を具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しやケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるよう、他職種連携に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理・美容院の依頼、消防隊員による防災訓練や心肺蘇生法の実技指導等、安全で豊かな暮らしができるよう地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医があれば、希望の受診先への支援を行っている。	基本的に病院受診は家族に対応してもらっている。受診時は身体状況等が分かるよう文書を作成し、家族を通して主治医へ渡してもらっている。急な発熱など、突発的な状況の場合は職員で病院受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に観察し、心身状態の把握に努め、些細なことでも異常に気付いたらすぐに看護師に報告・相談し、早期発見、早期治療、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が安心して医療を受けられるよう、病院への情報提供を詳しく行っている。現在、コロナ禍であるため面会はできないが、電話連絡にて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のことや看取りについては、契約時にできることとできないことを説明し、理解・同意を得ている。	現在看取りは行っていないが、訪問看護や協力医療機関との連携、また職員間での勉強会を繰り返し行いながら、看取りケアの実施を視野に入れ取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、勉強会や看護師と密に連携を図りスムーズに行えるようにしている。また、年に1回は必ず、救急隊員により心肺蘇生法の実地指導訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署や警備会社に協力を頂き、避難訓練を行い、入居者の安全な避難ルートの確認・通報訓練、消火訓練を行い、指導して頂いている。	避難訓練へは入居者、地域住民も参加している。救急蘇生法などの研修も併せて行っており、近隣住民が多く参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、認知症であっても人生の大先輩であるという気持ちを持って接し、赤ちゃん言葉を遣わない、配慮ある声掛け等、職員会議や勉強会で意識付けている。	職員一人ひとりが入居者に対し、自尊心を傷つけない言葉かけを心掛けている。レクリエーションへの参加は無理強いせず、入居者一人ひとりが自分の時間をゆっくりと過ごせるよう見守りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや要望を言いやすいような雰囲気作りに努めている。また、人前で言いにくい方に対しては、1対1で話をするなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『自分のペースで自分らしい生活を送る』と理念にも掲げているように、できる限りご自分のペースで1日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って染髪をしたり、髭剃り(職員による手剃り)をしたりしている。また、受診の帰りに店に寄り、ご本人に衣類を選んで頂き購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事準備をすることはできていないが、下膳等の簡単なお手伝いはして頂いている。	畑で収穫した野菜を使用したり、入居者の希望を献立に取り入れたりしている。食事の際はテレビを消して、天気の良い日はテラスで昼食をとるなど談話しながらゆっくりと食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立を作成し、バランスの良い食事を提供。状態に応じて柔軟に対応し、水分についても1日1500cc以上摂取できるよう、トロミ剤の使用や好みの物を出す等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯の方は夕食後に義歯洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けにて誘導している。また、最小限のおむつ使用を心掛けている。	おむつを外される入居者に対して、職員間で話し合いや勉強会を行いながら対応し、布パンツ使用へと変わった。入居者の何気ない動作を見ながら思いをくみ取る体制がとられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保、運動、食物繊維を多く含む食事の提供で、できる限り自然排便を促している。また、看護師や主治医と連携を図り、薬での排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとり体力や希望に沿ったを提供している。拒否があった時は無理強いはない。また、ゆっくり入浴できるよう1対1入浴としている。	毎日お湯を沸かし、いつでも入浴できるよう支援している。衣類の準備は職員付き添いのもと入居者が自ら行い、できることを取り上げない支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、また体力等にも考慮しながら休む時間を調整したり心地よく安眠できるよう、室温管理や寝具の調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方については、協力薬局と連携を図り、相談しやすい体制を整えており、服薬指導をして頂くこともある。普段は看護師と連携を図り、服薬の変更があった時は全職員で症状の変化はないか等観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野をコミュニケーションを通じ把握し、して頂くことで自信に繋げ、張りのある生活が送れるよう支援する。また、嗜好品についても看護師と相談し、ご家族の協力を頂きながらできる限り自由にして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍であるため、受診以外の外出支援は実施できていない。	コロナ禍による外出の制限前はうどん、回転寿司などの外食の支援を行っていた。外出制限中も畑の作物を入居者、職員一緒に育て収穫するなど楽しみを見い出せるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、トラブルを防ぐため事業所でお預かりしている方もおられる。ご家族へは預り金または施設の立替金から物品購入をすることについて許可を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族や知人へ電話の支援を行っている。また、手紙のやり取りができるよう必要物品の準備をするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は常に清潔にし、季節感のある室内装飾を行い、リビングから見える菜園には季節の野菜を植えるなどし、成長や収穫を楽しめる環境を整備するとともに、季節感も感じて頂いている。	季節ごとの行事を取り入れたり、職員と入居者が一緒に飾り物を作成し、掲示するなどして季節感を感じてもらえるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子を置き、自由に過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には在宅で使われていた家具や馴染みの物が置かれている。また、ご家族との写真や、仏壇・位牌等も持って来られ、プライバシーを大切に、安心して過ごせる環境を提供している。	自宅で使用していた馴染みのものを持ち込んでもらっている。居室に仏壇を置き、夕食後は毎日手を合わせる入居者もいた。自室でテレビを見ながらゆっくりと過ごされる入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりができること、できないことを把握し、その方の行動を見守り安全かつ少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。		